

12 フラメンコ衣装とフェリアの衣装

くるぶしまで届く長いたっぷりしたスカート。フリルやリボン、レース、刺繍などで彩られたフラメンコ衣装。フリンジのついたショールなどを組み合わせ、髪には花を飾る。あの華やかな衣装を身につけたくてフラメンコを習い始める人も多いと聞きます。現在では、作品によっては、普段着そのままで踊ったりするなど、実に様々なタイプの衣装が使われます。が、伝統的なフラメンコ衣装ももちろん健在です。フラメンコ衣装にはどんな歴史があるのでしょうか？

ルーツはマハ

伝統的なフラメンコ衣装はフラメンコが生まれた時代の、庶民の服装がベースになっています。長いスカートにショールというのは、18世紀後半から19世紀にかけてのスタイルです。身内の楽しみからお金ももらって芸を披露するプロへと変わっていくにつれ、

もともとはシンプルだった衣装に、アーティスト各自や仕立屋さんが趣向を凝らし、フリルの段の数や刺繍など装飾も増えていったと考えられます。

そのルーツを辿っていくと、画家ゴヤの時代の伊達者、マホ、マハたちの服装にたどり着きます。確かにゴヤが描いた、当時(18世紀末から19世紀初頭にかけて)の最先端を行くおしゃれを楽しむマハたちの段々になったスカートはフラメンコのスカートにも似ていますね。なお、ゴヤの時代の服装をゴジュスカ、ゴヤ風と言いますが、マドロニョと呼ばれるボンボンがついた網の装飾や、男性の膝丈のパンタロンなどは今もエスクエラ・ボレーラの衣装として使われています。また、闘牛士の華やかな衣装の起源もここにありそうです。

フェリア

1847年に始まったセビージャのフ

ェリアをきっかけに、ヒターナたちの格好を真似る上流階級の人たちが出てきました。お祭りは無礼講でヒターナたちのように歌って踊って楽しみましょう、ということなのでしょう。

また反対に、ヒターナたちやフラメンコの踊り手たちは上流階級の女性たちのファッションを取り入れていきます。裾を引きずるスタイルもその一つで、これがだんだんと長くなったのがバタ・デ・コラです。

フェリア衣装

ところで、フラメンコ衣装(スペイン語でトラヘ・フラメンカ)と一口に言いますが、大きく分けて二つのタイプがあるのはご存知でしょうか。一つはフェリアのようなお祭りの時に着る物。もう一つは舞踊のための衣装です。

セビージャの街を歩いているとフラメンコ衣装の店に出会うことも多いでしょう。日本に比べると安い、とすぐ



『セビージャの街角の揚げ菓子売り』Manuel Wessel de Guimbarda 1881 ©Colección Carmen Thyssen- Bornemisza
 19世紀末の普段着は長いスカートにショールで、そのままフラメンコの舞台に出演できそうです。



アルヘンティーナの衣装
 20世紀初頭に活躍し、日本で公演した最初のスペイン人舞踊家でもあるアルヘンティーナが実際に使用した衣装です。現代にも通用するデザインは世界を舞台に活躍した彼女ならではの。



に買いたくなってしまうかもしれません。でもちょっと待ってください。その衣装はフラメンコ舞踊のための衣装でしょうか？ 実はお店に並んでいる衣装はそのほとんどが一般の人がお祭りに着ていくためのものです。地元の人には毎日違う衣装で通う人も多く、毎年新調する人もいます。

フェリア用衣装は舞踊には向かないデザインもままあります。足にぴったりしたマーメイドラインのスカートは、足の動きが制限されてしまいますし、スカートを手に持つ振りなどもできません。フェリアで踊るだけならいいのですが、舞台上で踊る場合には窮屈でしょう。以前、あるプロの踊り手がマーメイドラインのスカートで踊ったのですが、足のソコで、かがみこんで腕まくりのようにスカートをたくし上げていたのには幻滅しました。美しくありません。やはり踊りには踊りにあった、動きやすい衣装が必要です。

民族衣装？

フラメンコ衣装はアンダルシアの民族衣装でもあります。ですが、昔から同じデザインのものを着続けているよくある民族衣装のイメージとは全く違い、毎年、何千という新しいデザインが発表され、流行の色や柄が生まれる、“生きている”民族衣装なのです。これは、日本の着物にも似ていますし、また地方に根ざした音楽舞踊でありながら、昔のまま演じ続けるのではなく新しい表現が日々生まれていくフラメンコとも共通するところですね。



エバ・ジェルバブエナ『クアンド・ジョ・エラ』Bienal de Sevilla
創作の舞台では素っ気ないほどシンプルな衣装もあります。エバのストンとした衣装は寝間着と陰口を叩かれることもありました。

ミニスカートの時代も

フェリア衣装ほどではないですが、舞踊用の衣装にも流行はあります。ミニスカートが流行した60～70年代にはフェリアだけでなく、タブラオなどでも丈の短いスカートが流行し、バタ・デ・コーラでも前だけ足が見えるデザインなどもありました。当時の衣装は綿製なので糊をつけてパリッとさせ

てアイロンがけをしなくてはならず、結構重さもありました。敷にならずに持ち運びができる化学繊維の衣装の登場で随分楽になったとベテランの踊り手は言います。また90年代からでしょうか、無地で、フリルのない、ストンとしたシンプルな衣装も人気になりました。衣装も世につれ、なんですね。



ミニスカート
ミニスカートの流行はフラメンコ衣装にも。今ではフェリアでごくたまに見られるくらいです。



1995年のしかぜ フラメンコ好き必見の映画『フラメンコ』完成披露の打ち上げでマノロ・サンルーカル、パコ・デ・ルシアと。後ろにベベ・デ・ルシアやバケラも。

志風恭子／1987年よりスペイン在住。セビージャ大学フラメンコ学博士課程前期終了。パセオ通信員、通訳コーディネーターとして活躍。パコ・デ・ルシアをはじめ、多くのフラメンコ公演に携わる。